

青山学院大学文学部

比較芸術学科

2026

いまなぜ、 比較芸術学科なのか

もし、あなたが何か一つの芸術に心を惹かれ、それを学問として学びたいと願うなら、比較芸術学科は、広く門戸を開いてあなたを待っています。

本学科は、「美術」「音楽」「演劇映像」という3つの領域で構成されています。大きな特徴としては、はじめから一つの領域に絞らず、特に1年次、2年次では、どの領域もまんべんなく学ぶこと。本来、芸術は一つひとつが独立しているのではなく、相互に関わり合っ

て発展してきたものですから、その全てを広く学んで、「比較」できる教養を身につけるのです。

重視したカリキュラムのもと、芸術作品を数多く鑑賞しては、レポートに表す経験を積み重ねること。過去数千年の歴史を生き永らえてきた芸術には、これから先も簡単には廃れない、普遍的な価値があります。そんな古典に向き合い、深い知識をもとに自分の感動を言葉に紡ぎ、第三者に伝わる文章で表現する——それはすなわち、世界はどう美しいのかを表すことであり、本物の美を知るあなたは、時代に流されない価値観を抱いてこれからの人生を歩んでいけることでしょう。

「真に古いもののみが永遠に若々しい」(E. G.イエイエル)。本学科で、そんな学びの実感を手にしてみてください。



美術

西洋美術

宗教や神話にまつわる美術の主題と図像について／
美術史の歴史と方法論の批判的考察 など

日本・東洋美術

様式の歴史的変遷／日本と東洋の造形比較 など

音楽

西洋音楽

古代ギリシア以来の名曲を学ぶ／政治・宗教との関係／
音楽理論や楽譜の変遷／楽器と演奏法／録音技術の影響 など

日本・東洋音楽

音楽を生み出した人々の美意識／仮面舞踊や音楽劇等との関係 など

演劇映像

日本古典芸能

歌舞伎・能・演芸／近代への移行期における西洋文明との出会い など

西洋演劇

演劇が文化に果たした役割 など

映像・映画

その誕生と発展／映画作家とさまざまな表現／
現代社会にもたらした影響 など

まずは、3つの領域の芸術を
比較しながら体験的に学びましょう。
やがては、自分に最も合った
専門領域を選択し、学びを深めます。

3

つの領域と主な科目

比較芸術学科 学びの4つの特色

1 芸術を 「比較」しながら学ぶ

「比較」による学習・研究は、この学科の学びの基本です。1年次の「比較芸術学入門」は、本学科の専任教員によりオムニバス形式で行われるものです。展覧会や演奏会、舞台、映画の鑑賞を前提に、その解説とレポート作成によって、「美術」「音楽」「映像演劇」の実際を比較しながら体験的に学びます。1・2年次の「各領域と文芸A/B」でも、2分野以上を選択することで、各領域と文芸との関係とそれぞれの本質を学びます。

2 文章の デッサン力を鍛える

1年次の「比較芸術学入門」から3・4年次の「比較芸術学演習」に至るまで、生の作品鑑賞を基本とする学習・研究を積み重ねます。そこで書き上げる鑑賞レポートは単なる感想文ではありません。美術なら形体や色調、構図その他、音楽なら楽器や声の音色、アンサンブルその他、演劇映像なら役者の所作やせりふ回し、演出等々、細部に至る観察による言語化（ディスクリプション）の訓練を義務づけ、文章のデッサン力の獲得を目指します。

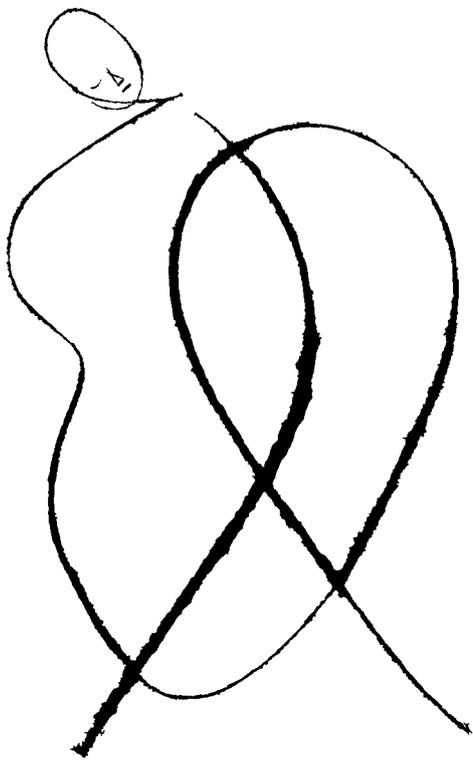
3 芸術鑑賞の基本を学ぶ

「芸術鑑賞の方法」では、そこに何が表され、何を意味しているのかという美術解釈の基本となる図像学をはじめ、具体的な美術作品の調査法、絵画や彫刻の簡単なデッサンの技法、西洋音楽や日本伝統音楽の楽曲分析、古い楽譜の解読や演奏法、日本古典芸能や西洋演劇では演技者や舞踏家による実技を前提とした所作や動きの意味、道具の役割など、作品鑑賞に必須の基礎知識を学びます。

4 古典テキストを読む

生の芸術作品を鑑賞することと並行して、古典テキストの読解にも力を入れます。芸術作品は、いわば歴史や文化の「非文字資料」ですが、やはりそれらの編年や意味の詳細を理解するには、文字資料であるテキストの読解が不可欠です。ある国の美術や音楽、演劇映像を真に理解するには、その国々の言語を理解せずして済ますことはできません。「原書講読」では、英語はもちろん、漢文・古文のテキストも取り上げます。

※ 15～16頁の「カリキュラムガイド」もあわせてご覧ください。



美術

古典的な美術作品は、経年による変化はありつつも、「もの」として存在し続けています。作品自体は変わらないのに、時代ごとにその作品の価値が変わるのはなぜなのでしょう。それは、作品に新たな価値を見だし、今の感性と言葉をもって社会にその意義・評価を改めて問うという行為があつてこそのことです。美術領域では、幅広い知識を学ぶ第一歩として、実際の作品を自分の眼で見て感じ、考え、レポートにまとめる経験を積み重ねることを大切にしています。その作品がもともと誰のためにつくられ、どこに飾られていたのか、想像を巡らせる。日本美術と西洋美術を比較したり、音楽や演劇映像の領域で得た知識も生かしたりする。そうして数多くの名作品に触れて、言葉を丹念に紡ぐ訓練を積むうちに、あなたの感性は間違いなく磨かれて、一生を支える価値観が培われることでしょう。



みずのちより 水野千依

西洋中世・ルネサンス美術史

京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(人間・環境学)。専門は中近世美術史。主著に『イメージの地層』(名古屋大学出版会、2011年、サントリー学芸賞、フォスコ・マラーニ賞、他受賞)、『キリストの顔』(筑摩書房、2014年)、主な共訳書にディディ＝ユベルマン『残存するイメージ』(人文書院、2005年)、カルロ・セヴェーリ『キマイラの原理』(白水社、2017年)など。『記憶の櫃——フラ・アンジェリコと〈形象〉』(名古屋大学出版会)を刊行予定。



『イメージの地層』

中世からルネサンスにかけての西洋美術を研究しています。美術作品というと、「美しいもの」として鑑賞する対象だと考えられがちです。しかし、artという語が専ら「美術」を意味するようになったのは近代以降のことで、古くはさまざまな「技芸」をさしていました。現在、美術館に収められ、鑑賞対象とされている作品の多くは、かつては崇敬対象だったり、神への捧げ物だったり、美的価値にとどまらない力をそなえ、見るものに、崇敬、畏怖、祈願、魅惑……といった多様な感情を

引き起こしてきました。私は、こうした近代以前の造形物を、伝統的な美術史学の手法で理解するとともに、それらが人々の生活のなかでいかに息づき、いかに受容されてきたのかを、歴史人類学的視座から考え直したいと思っています。それぞれの時代がいかにイメージを生きてきたのかを問うことは、同時に何を「美」としたのかを理解することにもつながります。授業では、西洋美術の基礎知識や方法論を学びつつ、イメージと人間が取り結ぶ豊かな関係をともに考えていきます。

いけのあやこ 池野絢子

近現代の西洋美術史



京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。専門は西洋の近現代美術・視覚文化。特に20世紀イタリア美術。単著に『アルテ・ボーヴェラ——戦後イタリアにおける芸術・生・政治』（慶應義塾大学出版会、2016年）。分担執筆に、木俣元一・松井裕美編『古典主義再考Ⅱ 前衛美術と「古典」』（中央公論美術出版、2021年）、小田原のどか編『彫刻2——彫刻、死語／新しい彫刻』（書肆九十九、2022年）等。



『アルテ・ボーヴェラ——
戦後イタリアにおける芸術・生・政治』

私は近現代の西洋美術史、特に20世紀イタリアの芸術を研究しています。

20世紀の芸術というと、よく分からない、難しい、と感じるかもしれません。詩人シャルル・ボードレーンによれば、近代とは二面性をもっており、その半分は「一時的なもの、うつろい易いもの、偶発的なもの」で、もう半分は「永遠なもの、不易なもの」だといいます。今日にいたる芸術上のさまざまな実験は、まさにその時代の諸相を映す鏡であるとともに、途切れることなく連綿と続いてきた歴史の

根源に通じる道でもあります。

20世紀は、新しい形態の芸術表現が次々と開花した一方で、二度の世界大戦や度重なる国家間の争いによって、人類が未曾有の危機を経験した時代でした。その芸術には、困難な時代における個人の生の証言と、時代を跨いで受け継がれる人類の肖像の両方が表れています。変わるものと変わらないもの、新しいものと古いものを、表裏一体のものとして感じ取れるようになると、近代から現代にいたる芸術はずっと面白くなりますよ。

つだてつえい 津田徹英

日本・東洋の宗教美術研究



慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得満期退学。博士（美学）。神奈川県立金沢文庫学芸員、国立文化財機構 東京文化財研究所 文化財情報資料部長を経て2018年より現職。単著に『中世の童子形』（至文堂、2003年）、『平安密教彫刻論』（中央公論美術出版、2016年）、責任編集に『組織論——制作した人々』（竹林舎、2016年）、分担執筆に『アジア仏教美術論集 東アジアⅦ アジアの中の日本』（中央公論美術出版、2023年）ほか多数。



『中世の童子形』

私の最近の研究と関心は、8世紀（奈良時代）の平城京における官立寺院（国家寺院）の密教受容について、慎重かつ緻密に史料解読を進めつつ、現存の当代に遡る造形作品にその痕跡を求めて解明を目指すというものです。この研究は、本格的密教の到来と受容は空海の中国留学からの帰国を俟って9世紀に始まるという常識を根本的にくつがえすものです。当然のことながら前人未踏・未開拓分野の研究と言っても過言ではありません。それとともに、フィールドワークとしてこれまで取

り組んできた中世の宗教美術・造形の研究（異形の神々の造形、真宗の美術、高僧伝絵巻）についても精神的に実査（作品調査）を行い、新知見の公表を心がけています。

詰まるところ、私が担当する「特講Ⅰ（7）」「同Ⅰ（8）」、「日本・東洋の文芸と美術B」、「基礎演習」の各講義は、それらの研究成果の一端を還元するかたちで行っています。講義を通じて皆さんは美術全集や概説書の類では全く知り得ないコアな最先端研究に触れ、かつ、誘われることになるでしょう。



いでみつ さ ち こ 出光佐千子

日本近世絵画史

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得済退学。博士（美学）。池大雅の国宝「楼閣山水図屏風」に出会い、大学院へ進学。2003年から4年間、ロンドンの大英博物館日本部門に勤務後、東京の出光美術館で学芸員として、「小杉放庵と大観」（2009年）、「江戸絵画の文雅——魅惑の18世紀」（2018年）等の展覧会を開催。出光美術館館長。主な著書に『池大雅「真景」論攷』（中央公論美術出版、2023年）、「美の回廊」（出光美術館 門司、2025年）等。



『美の回廊』

江戸時代で、今や世界的に最も知られている水墨画の巨匠といえば、伊藤若冲（1716 - 1800）ですが、当時、若冲より人気があった池大雅（1723 - 1776）を研究しています。大雅は、戸外で描くのが好きで、モネより150年も前に色彩の点描で柳の葉のゆらめきを描き出した天才画家です。また、旅の記憶に基づいた「真景図」という実景図を描いては、新奇なものを好む人々の評判になりました。詩文結社のサロンに集う中国通の漢詩人たちは、最新の中国式喫茶や七弦琴などを楽

しみながら、大雅の画に詩文をつくって寄せました。授業では、作品と詩文の双方を読み解くことで、詩・書・画を一体として味わう文人画の鑑賞方法を学びます。また、都市図をテーマに、大雅が憧れた雪舟など水墨画の古典、中国の名勝山水図、「洛中洛外図屏風」などの都市風俗画と幅広く比較し、18世紀の都市図における「人間讃歌」の様相を掘り下げます。美術を通して自国の文化を深く知ること、国際的に活躍する道も自然と拓かれることが期待できるでしょう。

特別授業をご紹介します 1

◎第7回比較芸術学会大会《2019年度》

岡 岩太郎氏 「文化財修理の現在 ——装演修理の現場から」

株式会社岡墨光堂の代表取締役を務める、岡岩太郎氏に講演していただきました。標題の「装演」とは書画の修理を行うこと



を意味します。岡墨光堂は、日本の国宝・重要文化財を中心とした絵画、書籍・典籍、歴史資料の保存・修理を担う国宝修理装演師連盟の傘下にあり、氏は日々、工房を牽引するとともに、その理念と技術の維持と向上、さらには、次世代を見据えての後進の育成に心血を注いでおられます。講演では、作品の保存修理の基本理念、要請される技術力と必要不可欠な材料について、さらには、作品そのものを引き立てる装装裂等の選定（取り合わせ）に求められる感性についても話題が及んで、時には現場のスライドを交えながらお話していただきました。

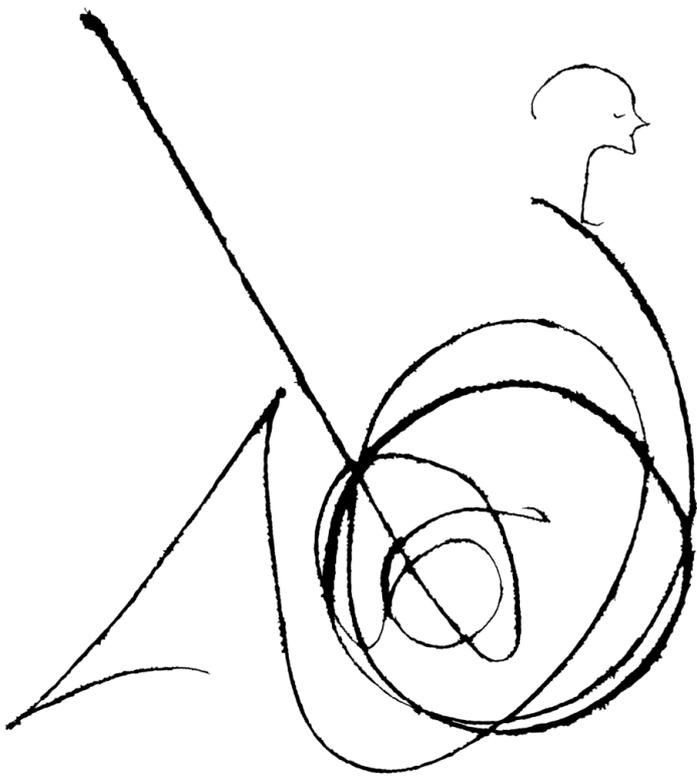
◎芸術鑑賞の方法Ⅰ（3）ゲスト講師《2023年度》

ニコル・ルーマニエール教授 「大英博物館で マンガ展を開催するまで」

ロンドンの大英博物館で2019年、日本の漫画の大規模な展覧会が初めて開催されました。3カ月で約18万人の来館者があり、同博物館の企画展として過去最高記録となりました。この展覧会のキュレーターであり、日本学研究者でもあるニコル・ルーマニエール教授を迎えて、なぜ大英博物館でマンガ展が実現したのか、大規模展覧会の舞台裏について熱く語っていただきました。日本の漫画の芸術性のみならず、マンガが日本を超えた世界的規模の社会現象であることを示すには、世界の叢智が集まった大英博物館こそふさわしい。そんなストーリーに、学生たちは心を動かされていました。原画の

線の美しさや、漫画と陶磁器の分業制の類似点など、豊かな感性と発想の大切さを学んだ授業でした。





音楽

音楽は「時間芸術」であり、美術のように、目で見て特徴を論じることができません。例えば、現代とは楽譜も異なり、録音も残されていない時代の音楽をどう理解するか。楽譜の読み方はもちろん、その楽曲がつけられた社会的背景や当時の演奏法、ギリシア神話や聖書との関連など、とにかく幅広い知識が必要となります。そうした知識をもとに分析して理解し、過去の音楽の素晴らしさに気づくうちに、あなたの目は開かされ、的確な言葉で音楽を表現するすべが身につくことでしょう。グレゴリオ聖歌、パレストリーナ、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ショパン、チャイコフスキー、ワーグナー、ストラヴィンスキー、そしてビートルズ……。メロディーもコードも出尽くして、傑作の誕生に行き詰まるような今だからこそ、過去一千年の古典の真価を学び、これからの人生のかけがえのない宝としませんか。



なすてるひこ 那須輝彦

中世ルネサンス・バロック音楽史

立教大学大学院文学研究科組織神学専攻博士後期課程退学。ケンブリッジ大学大学院修士課程修了 (Master of Philosophy)。中世からバロック時代にかけての西洋音楽史、とくにイングランド教会音楽史と音楽理論を専攻。著作に『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』(共著、ミネルヴァ書房、2013年)、『ルネサンス・ポリフォニー選集』(共編、2017年、カワイ出版)、『マイクログス (音楽小論)』(共訳・共著、春秋社、2018年) など。



『マイクログス (音楽小論)』

中世ルネサンス～バロック時代の音楽を研究しています。中世の音楽理論などと聞くとほのか昔の難解な話に聞こえるでしょう。でもじつは西洋音楽の根本を考えるとということなのです。例えばピアノの鍵盤はどうしてあいうえお並び方をしているのか、ドレミの階名は誰がどうして考え出したのか、音楽を楽譜に表すためにヨーロッパ人はどんな工夫を重ねてきたか……。当時の状況に身を置いて思考経路をたどるのはとてもスリリングなことです。もちろん実際の楽曲もすばらしい。十字軍時代に騎

士たちが詠んだ愛の歌、大聖堂に響いていた清らかなア・カペラのミサ曲、宮廷の祝祭を彩った舞曲……。ピアノはまだなく、好んで奏でられていたのはチェンバロやリュートでした。皆さんにとって未知の名曲がどれほどあることでしょう。そしてそれらを知ることが、皆さんの音楽性をどれほど豊かにすることでしょう。400年も500年もの時空を超えて音楽世界に旅し、知られざる名曲がどのように作られ、どんな場でどのように演奏されていたのか、音楽の知の探究に出かけましょう！



ひろせ だいすけ 広瀬 大介

西洋音楽史・19～20世紀のドイツ・オペラ史

一橋大学大学院言語社会研究科・博士後期課程修了、博士（学術）。著書に『オペラ対訳×分析ハンドブック リヒャルト・シュトラウス／楽劇ばらの騎士』『リヒャルト・シュトラウス 自画像としてのオペラ』（以上アルテスパブリッシング）、『世界史×音楽史 知っておきたい！ 近代ヨーロッパ史とクラシック音楽』（音楽之友社）など。『レコード芸術ONLINE』など各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、演奏会曲目解説・CDライナーノーツの執筆、オペラ公演・映像の字幕・対訳などを多数手がける。



『オペラ対訳×分析ハンドブック
リヒャルト・シュトラウス／
楽劇ばらの騎士』

圧倒的な魅力を放つ芸術作品に接したときに感じる、みずからの心の「震え」をなんとかして他者に伝えたい、と思う瞬間があります。ただ、その言葉以前の心の「震え」を他者に伝える手段として、我々は言葉以外のそれを持ち合わせていません。とくに音楽においては、その言語化が難しい。音楽そのもののありようを言葉で他者に伝えるのは永遠のテーマであり、私自身も常に試行錯誤しています。

音楽に限らず、芸術作品の魅力を伝えるために必要なのは、作

品そのもののありようを的確に描写できる文章力を磨くことでしょう。さまざまな方法でトレーニングを重ねることで、芸術作品から受け取れる自身の情報量は格段に増えます。自身の心の「震え」は、その後にそっと添えるだけで十分な効果を発揮することでしょう。比較芸術学科は、そんなトレーニングを絶え間なく続け、この世の美しいものの魅力を発信し続けたいとこころざす教員と学生が、同志のように互いを励まし合う、私にとって本当に大切な場なのです。

特別授業をご紹介します 2

◎比較芸術学入門B・特別講演会《2021年度》

鈴木雅明氏 「バッハと賛美歌」

——“いざ来たりませ、異邦人の救い主”を中心に——

バロック音楽の演奏団体として世界最高峰の一つに数えられるバッハ・コレギウム・ジャパン（バッハ当時の仕様の楽器を使



うオーケストラと合唱団）の創設者・指揮者で、ご自身が優れたオルガン・チェンバロ奏者でもある鈴木雅明氏（東京藝術大学名誉教授）をお招きして、レクチャー・コンサートを開催しました。会場は巨大なパイプ・オルガンを備えた本学のガウチャー記念礼拝堂。鈴木氏は、バロック音楽の巨匠バッハが、賛美歌のメロディーを使っていかに素晴らしいオルガン曲を作り上げているか、実演を交えて解き明かしてくださいました。学生たちはバッハの深淵なアレンジの技に驚嘆し、また神業のような手さばぎ・足さばぎで壮大な音を繰り出す鈴木氏のオルガン演奏に酔いしれました。

◎第10回比較芸術学会大会《2022年度》

濱口竜介監督 「映画と笑い」

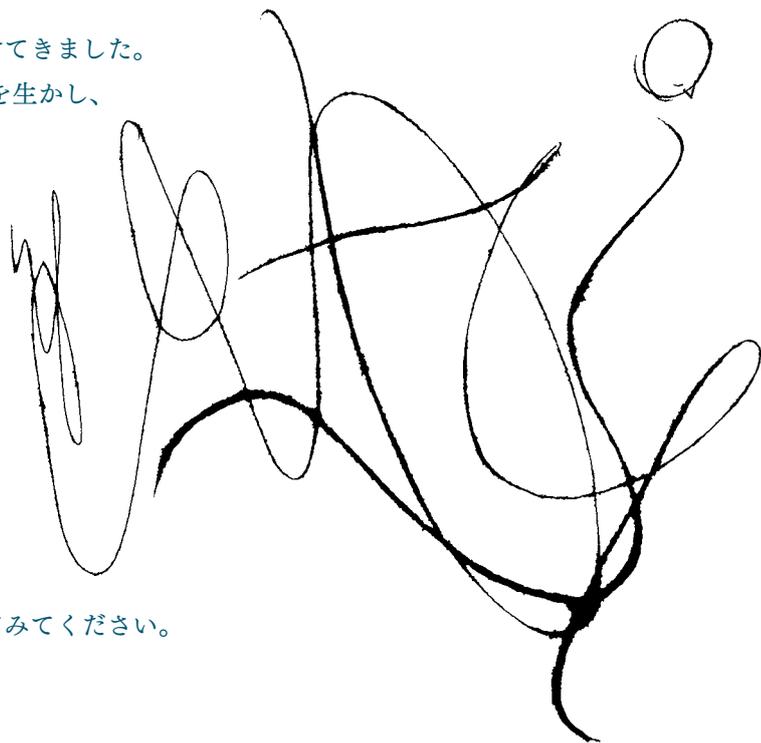
世界の映画祭、批評家連盟から数多くの賞を授与された『ドライブ・マイ・カー』などの作品で知られる映画監督・濱口竜介氏をお招きしました。抜粋上映されたのは、伝説の無声喜劇俳優バスター・キートンから、フランスの喜劇作家ジャック・タチ、ポルトガルの巨匠マノエル・デ・オリヴェイラほか手がけた名場面。創意工夫の凝らされた映像が流れると、学生の間には、まず賛嘆の入り混じった動揺が拡散し、少し遅れて笑いの波が。間違いなく面白いものの、謎めいてもいて、戸惑わずにいられない……しかし、それこそが「映画の笑い」の最も貴重な点であると監督は言います。笑

いつつ啞然とするような映画、未知との遭遇をぜひ大事にしてほしい。そんなメッセージで講演は締めくくられました。



演劇映像

人類の歴史とともに歩んできた演劇は、
人生の喜怒哀楽を豊かに描き、社会に問いを投げかけてきました。
19世紀末に生まれた映画もまた、演劇にはない手法を生かし、
映画ならではの表現を探し求めながら、
地域ごと、時代ごとに発展を遂げていきます。
ここでは、そんな演劇映像の大きな流れを、
連続的かつ総合的に学ぶことができます。
なおかつ、それぞれを「比較」できるだけの
知識を身につけることで、
地域や時代による表現の「固有性」、
「そこにしかないもの」が、
はっきりと浮かび上がって見えてくることでしょう。
演劇映像は、音楽や美術といった
他分野の要素も含む「総合芸術」です。
ほかの領域で得た知識も生かしながら、学びを深めてみてください。



さとう 佐藤かつら

歌舞伎ほか、日本の古典芸能分野

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（文学）。
鶴見大学文学部専任講師、同大学准教授を経て2012年に青
山学院大学文学部に着任。著書に『歌舞伎の幕末・明治——小
芝居の時代』（ペリかん社、2010年）、校注に『円朝全集』第
一・十・十二巻（岩波書店、2012年・2014年・2015年）
等。近年の論文に「女役者と近代——その出発点」（『アジア遊
学 232、東アジア古典演劇の伝統と近代』勉誠社、2019年）
ほかがある。現在は女役者・市川九女八の年譜を調査中。



『歌舞伎の幕末・明治——小芝居の時代』

かけ声が飛び交い、舞台と客席が一体となる歌舞伎の熱狂が好きで、「観客とは何か」ということに興味を持ち、より多くの観客が観ていた大衆的な歌舞伎（小芝居）について研究を進めてきました。最近のはかつて存在していた女性の歌舞伎役者について調査しています。基本的に男性のものとされる歌舞伎の世界において、女性たちの芸はどのようなものだったのか、芸をどのように高めていったのか、追究しています。授業では能、狂言、人形浄瑠璃（文楽）、歌舞伎、話芸など日

本の古典芸能を扱いますが、おそらく多くの皆さんには最初、なじみが薄い分野だと思います。でも知らないままではもったいないことです。日本で育まれてきた芸能の歴史や特徴を知れば知るほど、新しい発見があると思います。日本の芸能の持つ独自の言語表現や身体表現、舞台表現の豊かさと魅力を知り、知識として蓄える。さらには自分なりの問題意識を持ってそれらの芸能に向き合い研究を進めていく、そういった学びができるようにつとめています。



みうら てつや 三浦哲哉

映画・表象文化論・食文化研究

東京大学大学院総合文化研究科超域文化研究科表象文化論コース博士課程修了。博士（学術）。著書に『自炊者になるための26週』（朝日出版社、2023年）、『LAフード・ダイアリー』（講談社、2021年）、『食べたくなる本』（みすず書房、2019年）、『『ハッピーアワー』論』（羽鳥書店、2018年）、『映画とは何か——フランス映画思想史』（筑摩選書、2014年）、『サスペンス映画史』（みすず書房、2012年）。雑誌や新聞に映画・食文化をめぐる評論・随筆を寄稿。



『サスペンス映画史』

おもにアメリカ、フランス、日本の映画表現について研究しています。現在は、一切の演技なしで劇映画をつくらうとした特異な映画作家ロベール・ブレソンの本を執筆中。見返すたびにその美しさに胸を打たれ、彼の創作の秘密をどうすれば解き明かせるか、頭を悩ませています。

授業の中心テーマは「映画表現」です。小説とも、漫画とも、絵画とも、演劇とも、似ているようでちがう、「映画」ならではの美しさや感動はどこにあるのか。古今東西の名作を取り上

げ、じっくり吟味しながら、学生の皆さんと一緒に考えてゆきたいです。

また、「20世紀は映画の世紀である」と言われます。映画が爆発的に普及し、テレビ、インターネット動画へ引き継がれさらに拡散したことで、私たちのものの見方、世界の捉え方は、良くも悪くも劇的な変化を遂げました。この変化はいかなるものだったのでしょうか。「映画以後」を生きる私たちの感性はどのようにつくられたのでしょうか。一緒に考えてみませんか。



いのうえ ゆりこ 井上由里子

演劇学・フランス演劇

大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻・博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。共著にLa République des traducteurs. En traduisant Valère Novarina（『翻訳家たちの共同体——ヴァレール・ノヴァリナを訳しつつ』、Hermann、2021年）、Valère Novarina. Les tourbillons de l'écriture（『ヴァレール・ノヴァリナ——エクリチュールの渦』、Hermann、2020年）、共訳に『シャルロット・ベリアンと日本』（鹿島出版会、2011年）。



『翻訳家たちの共同体——
ヴァレール・ノヴァリナを訳しつつ』

演劇は、はかない芸術です。幕が下りると跡形もなく消えてしまいます。観客なしには成立せず、観客の記憶にしか残りません。劇場に足を運び、今を生きる古典のみずみずしさをともに味わい、そして心ゆくまで語りあいましょう。演劇も、人生も、一期一会です。

演劇の古典は遠いようで近い存在。ミュージカル『マイ・フェア・レディ』や『ライオンキング』の背景を探ると、ギリシア神話から日本の文楽まで、さまざまな古典が息づいています。

テレビや映画でおなじみの「ドラマ」も、語源をさかのぼれば哲学者アリストテレスの演劇論にたどりつきます。

教室では、古代ギリシアから現代までの2500年に及ぶ西洋演劇の歴史をひもといていきます。さらに戯曲の精読や上演映像の分析を通して舞台を観る眼を養います。

私は西洋演劇、なかでもフランスの近現代演劇を研究しています。近現代の演劇人にとって古典は創作の豊かな源泉です。これからどんな新しい作品が生まれてくるのでしょうか。

在學生が語る、 比較芸術学科ならではの魅力

ここで学んだからこそ得られたこと、素晴らしい経験について、
4年生の3人に、たっぷりと語り合ってもらいました。



3領域を代表して集まってくれた3人。

左から、瀬間海結さん（音楽・広瀬ゼミ）、窪野杏香さん（演劇映像・三浦ゼミ）、阪井健太さん（美術・水野ゼミ）。

——まずは、この学科を志望した理由についてお聞かせください。

阪井 僕は青山学院高等部からの内部進学です。絵を描くのが好きで、中学・高校と美術部に所属していました。美術はこれからの人生でずっと付き合っていく分野だと思ったので、ちゃんと学んで財産にしたいと入学しました。高等部を受験するときにはもう、そんな志望があった。当時から、この学科は1年次で芸術全般を学び、2年次から徐々に領域を絞り込んでいく、そして3年次でゼミに入り、自分で自由に研究できる、というくらいは知っていました。

窪野 私は静岡出身で、大学進学を機に上京しました。高校時代は、「ものを知っていること」にアイデンティティーを感じていたところがあって、あんまり学校になじめなかったんです（笑）。夜な夜な画集を眺めるうちにシュルレアリスムに触れて、こんな面白い世界があるんだ！ と思って。高2の終わりくらいに、そういう芸術を勉強するのは面白いかもしれないと思ったとき、比較芸術学科の存在を知って志望しました。双子の妹も一緒にシュルレアリスムにハマっていて、妹にこの学科のホームページを教えてもらったことがきっかけです。

瀬間 私は小学3年生から7年間、「ピティナ・ピアノコンペティション」というコンクールに参加していました。このコンクールは、4つの時代背景に分かれた課題曲から選んで演奏するのですが、その時代に沿った演奏方法が求められます。プロの演奏家や音楽研究家の楽曲分析を参考にするうちに、楽曲分析に興味を持つようになって。高校の音楽の先生に「そういう学びができる学科はありますか？」と伺ったら、広瀬大介先生のクラシック音楽についての著作を紹介してくださいました。それを読んで、広瀬先生のもとで楽曲分析を学びたいと思っ

音楽や演劇映像の領域も勉強する中で、 芸術はつながりがあることを体系的に学びました

て、比較芸術学科に入ろうと決めました。——入学してみて、どのように感じましたか？ 1年次で覚えていることがあれば、教えてください。

阪井 最初はそれほど美術の鑑賞の知識がなかったので、やる気はあったけれど、授業についていけるか不安でした。でも1年次の授業では、鑑賞の基礎を丁寧に教えてくださって。音楽や演劇映像の領域も勉強する中で、それぞれの芸術はつながりがあることを体系的にしっかり学ぶことができ、ここに入ってよかったなと思いました。

窪野 入学した当初は絵画を学ぼうと思っていたけれど、ここでは必然的に他の分野も学ばなければならなくて。私は音楽について知見が深くなく、難しかったです。だから音楽は自分なりに頑張ろうと、絵画、映画、演劇の方面を目指そうと、1年のときに意志は固まりました。あとは、表現することをごく当たり前にやっている人が多い学科だと思いましたね。自分は知識を得ることに重きをおいていたんですが、影響を受けて、小説を書き始めました。

阪井 絵を描いている人と音楽をやっている人は本当に多いですね。僕は美術部



に入っているんですけど、美術部で積極的に活動している、比較芸術学科の同級生がたくさんいます。研究したいというだけではなく、自分で表現したいという人が多い。

瀬間 私も音楽ばかりやってきたので、演劇映像や美術でどんな学びができるのか、不安がありました。入ってみると、1年次ではいろんな分野をバランスよく学べて。座学はもちろん、課外ワークショップでオーケストラを見に行ったり、美術館に足を運んだり、そうして実際に体験して、芸術を肌で感じられるのが、深い学びにつながっていると思います。

阪井 1年次の課外ワークショップでは、歌舞伎や文楽にもみんなで行きました。オーケストラはともかく、歌舞伎や文楽は自分で見に行く機会がなかなかない。それから、その分野に詳しい友人から話を聞きながら見られるのは、ぜいたくだなと思いました。自分一人でチケットを取って見に行く以上の価値がある。

瀬間 ただ行って終わりじゃなくて、帰り道に感想をシェアできるのが楽しいし、学びにつながっています。ほかの人の感じ方とか、それぞれが得たものをシェアできるのは、みんなで行く意味だと思います。

——課外ワークショップの後は、必ずレポートをまとめるんですね。比較芸術学科はレポートの提出が多いそうですが、それはいかがでしたか？

瀬間 感じたことはあっても、それを言語化するのがすごく難しくて、葛藤した



記憶があります。やっぱりそれは、何度も書くことによって、表現の仕方、言葉への表し方が分かってくる。

楽曲分析は、その曲の時代背景や、作曲家ごとの作曲法や構成を分析するのですが、回数を重ねるごとに、それほど難しいものではないと分かってきます。楽曲分析をすることで、楽譜はただの紙っぺらではなくて、その奥に広がっているものが見えるというか、その作曲家がどういう思いを持って作曲に取り組んだのかも見えてくるんです。

阪井 最初は「〇〇がきれいでした」といった、感想文みたいなことも書いてしまっていたかも（笑）。書く経験を何回も重ねる中で、自分の感情や印象の根拠がどこにあるのか、ほかの作品や他分野の芸術とも比較しながら論じることが少しずつできるようになってきました。僕は西洋美術史の研究ゼミに所属しているんですけど、そこで研究を発表した後に、今後はどういう方向性で進めていくべきかという展望を広げるフィードバックを、ゼミの水野先生がしてくださいました。研究をしていると、参考文献を探すのが本当に難しいと実感しているのですが、それも提示して下さって。そん

自分の好きなことが一つあれば、大丈夫。 学びを日常生活の延長線上に組み込める学科です

なサポートもあって、自分で方向性を決めて、主体的に研究を進めていく姿勢が身についたと思います。

窪野 三浦ゼミでは、意外と忘れがちな映画本来の見方・楽しみ方を何度でも教えてもらえます。「この映画、こういう見方もできますよ」と、いろいろな捉え方をしているんだと気づかされました。世間には、「この作品はこういうものだ」といった決めつけもあふれていますが、映画って本来そういうものじゃない。ゼミという場所で、専門的に映画を学んでいるからこそ、分析的な視点は忘れずに、でも、堅苦しい考えは持たずに映画を見ることができているのかなと思いますね。

1年次では、自分はレポートを書くのは得意だけど、話すことでは自分の言いたいことを全く伝えられないと思っていました。何か誤変換されて伝わってしまうような。ここで学んで考えを深めていく中で、納得のいく討論が少しはできるようになった気がします。

——さかのぼって、高校ではそういう話ができる人はいなかったのでしょうか？

窪野 私の地元は田舎なのもあって、「何それ？」と言われてしまうことがありました。ここでは、芸術をやっていても孤立感を覚えずに、芸術についてどこまでも突き詰めていくことができます。

阪井 学問として勉強しているからこそ、理論を組み立てて、感情論ではない議論



が友人同士でできるように思っています。入学したばかりの頃を振り返ると、好きな音楽や映画のことを聞くのはいいけれど、「あ、そうなんだ。いいよね」くらいしか言えていなかった。今は、実際につくることの難しさも、表現している人が多いことも分かっているので、お互いの意見を尊重してリスペクトし合ったうえで、白熱した議論ができているのかなと思います。

瀬間 言葉にすることが怖くないというか、それをちゃんと受け入れてくれる環境がここにはあるなって思っています。年次が上がるにつれて分かち合えるというか、そんな環境を自分たちでつくっていつている。

——最後に、この学科を志望する方に向けて、メッセージをお願いします。

阪井 自分の好きな芸術の領域を4年間しっかり学べるのは本当に魅力ですし、その道の専門家の先生方であったり、一緒に同じ方向を向いて学ぶ学生と交流ができるのは、貴重な環境です。興味があれば、ぜひ！ 個人で研究を行う以上に、楽しく交流しながら知見を広げていけるとと思います。

窪野 私は入学前にはシュルレアリスムを学びたいと決めていましたが……比較

芸術学科は、芸術で何かしら好きなものがあれば、別に詳しくなくても入って大丈夫な学科です。学校が終わってから渋谷のシアターに行ったり、美術館に行ったりと、自分の好きなことがあれば、学びを日常生活の延長線上に組み込むことができる。そんなに気負わず、でも、いろんなことにアンテナを張っていた方が、入学した後で楽しくなると思います。好きなことについての本を読んだり、絵や演劇などいろんなものを見て、胸をときめかせることができる人は、すごく楽しい学科のはず。ここにいれば、変な人だって言われなくて済むし(笑)。

瀬間 4年次になって振り返ってみると、私は入学前、ここで楽曲分析を学びたいと、そればかり考えていました。比較芸術学科に入りたいと思っている人には、やっぱり受験勉強は大変だと思うんですけど、勉強の合間にこれまで見たことのない映画を見ようとか、聴いたことのない音楽を聴いてみようとか、今まで自分があんまり関わってこなかった分野にも、軽い気持ちでちょっとでも触れてほしい。そうして興味をどんどん広げていくことを心がけると、視野が広がって、大学生活がさらに充実したものになると思います。

言葉にすることが怖くないというか、
受け入れてもらえる環境が、ここにはあります

卒業生からのメッセージ

感動は無限だと知った4年間

東映株式会社

比較芸術学科 2022 年度卒業

三宅 萌さん

ミュージカルについて多角的に学びたいと思い受験した比芸。西洋演劇に限らずさまざまな芸術に触れる中で、気づけば私は映画に惹かれていました。舞台とはまた違う、より自由な表現を許された映像芸術の面白いこと……！ シネフィルの同期たちに比べると劣等生だった私の拙い意見にも、友人や先生は丁寧に耳を傾けてくれました。「誰の感性も否定しない場所」。それが比芸です。大学での学びは、私の感性を鋭くも優しくしてくれました。高校時代、進路に悩み抜いてここに決めた自分に、よくやったと言いたいです。今年の4月からは映画会社に勤めています。配属先は、なんとテレビ関係の部署。また新たな世界への挑戦ですが、比芸で培ったものを忘れず、精一杯仕事したいと思っています。私を思いがけない未来に連れてきてくれた比芸に、心からの感謝を込めて。



知の源泉を訪ねて

株式会社毎日新聞社

比較芸術学科 2023 年度卒業

奥 萌奈さん

卒業から早いもので数カ月。思い出すと、大学時代は何にも代え難いぜいたくな時間だったと実感します。講義を受けてはその足で美術館へ、休日はコンサートに演劇など、学生証を携えて東京の文化施設を駆け巡る日々でした。コロナ禍が落ち着いてからは、好きが高じて岩手県でのアートプロジェクトの立ち上げに参画したり、憧れのウィーンに行ったり。そんな時間の中で、偶然にも新聞社の文化事業の存在を知り、今に至っています。芸術は言わば「知の源泉」。この学科での学びが、ビジネスの世界においてアイデアのヒントになっています。社会人としては駆け出しの身ですが、ここで得た知見を糧に、近い将来、日本における芸術文化の発展に寄与したいと思っています。皆さんもこの青山の地で、ご自身の「好き」を大いに開拓してってください。



「消えない引き出し」をつくる

東京藝術大学大学院

比較芸術学科 2024 年度卒業

菊地 恵さん

比較芸術学科のよさを一つ挙げるなら、1、2年次で各領域の芸術をシャワーのように浴びて、幅広く学べる点です。私は3年で日本美術に進みましたが、西洋美術と比較できたり、1年次で能や狂言を何度も見た経験が活かされたり……たとえるなら、自分の中に「消えない引き出し」がたくさんできて、そこには芸術に関する知識が整理されている。これから何を学ぶにしても、そのいくつかを引き出せば考えを深められる、行き詰まることはない。そんな心強さがあるのです。学芸員資格取得の勉強をするうちに文化財保存学に興味を抱くようになり、この春からは東京藝術大学大学院に進み、保存科学研究室で学び始めています。長い人生の傍らには、芸術があるほうが間違いなく楽しいはず。あなたも卒業する頃には、好きなことや「引き出し」が、きっといっぱいできますよ。



卒業後の進路

本学科の学生が取得可能な資格は、学芸員、司書、社会教育主事。芸術分野への道はもちろん、一般企業への道も広く開かれています。

2024 年度 進路・就職先 (一部)

■大学院・大学・専門学校

専門学校桑沢デザイン研究所
青山学院大学大学院
東京藝術大学大学院
東京大学大学院
京都大学大学院
慶應義塾大学大学院

■建設業

株式会社共立
庭師伊右衛門
三菱地所ホーム株式会社

■製造業

ビクターエンタテインメント株式会社
株式会社虎屋
株式会社オンワード檉山
大日本印刷株式会社

■情報通信業

株式会社セガ
株式会社トムス・エンタテインメント
西日本電信電話株式会社

富士ソフト株式会社

株式会社ユーキャン

■卸売業・小売業

株式会社ジーユー
ルイ・ヴィトンジャパン株式会社
レクストホールディングス株式会社

■金融業

京都中央信用金庫
株式会社常陽銀行
野村證券株式会社
三菱UFJニコス株式会社
株式会社横浜銀行

■不動産取引・賃貸・管理業

ANAファシリティーズ株式会社
株式会社木下工務店

■専門・技術サービス業

NSSホールディングス株式会社
デロイトトーマツファイナンシャル
アドバイザリー合同会社
株式会社電通

■生活関連サービス業・娯楽業

株式会社博報堂プロダクツ
株式会社船井総合研究所

■宿泊業・飲食サービス業

TBCグループ株式会社

株式会社帝国ホテル

株式会社梅田芸術劇場

株式会社JTB

株式会社東京ハーツ

■教育・学習支援業

株式会社小学館集英社プロダクション
株式会社中萬学院

カリキュラムガイド

○カリキュラムの特徴

「比較学習」「古典重視」「鑑賞教育」の3つに集約されます。「比較学習」は、3領域それぞれの時代的・地域的比較はもとより、領域相互の比較検討、そして他の人文諸学との比較も含まれます。芸術が本来、各ジャンルの相互関連により成り立っていることを前提としたものです。「古典重視」は東西の古典テキストの読解を重視すること、「鑑賞教育」は生の芸術作品の鑑賞を踏まえた教育です。

基礎から専門へと、段階を追ってカリキュラムは設定されます（右頁の略図参照）。大切なのは、まず固定観念を棄てること。そして改めて、自分に最も合った専門領域を探っていくことです。結果としてそれは、幅広い芸術的視野からの学習・研究を可能とし、将来的には社会への着実な貢献を約束してくれるでしょう。

| | |
|------------|--------|
| 学科科目（必修） | 20 単位 |
| 学科科目（選択必修） | 50 単位 |
| 外国語科目 | 8 単位 |
| 青山スタンダード科目 | 24 単位 |
| 自由選択科目 | 26 単位 |
| 卒業要件単位 | 128 単位 |

○課外ワークショップの実施

美術館・博物館、劇場・ホールに出向き、美術・音楽・演劇映像を鑑賞します。鑑賞後のレポート作成は、感じたことを言葉にし、他人に伝えるという訓練に直結しています。

1
年次

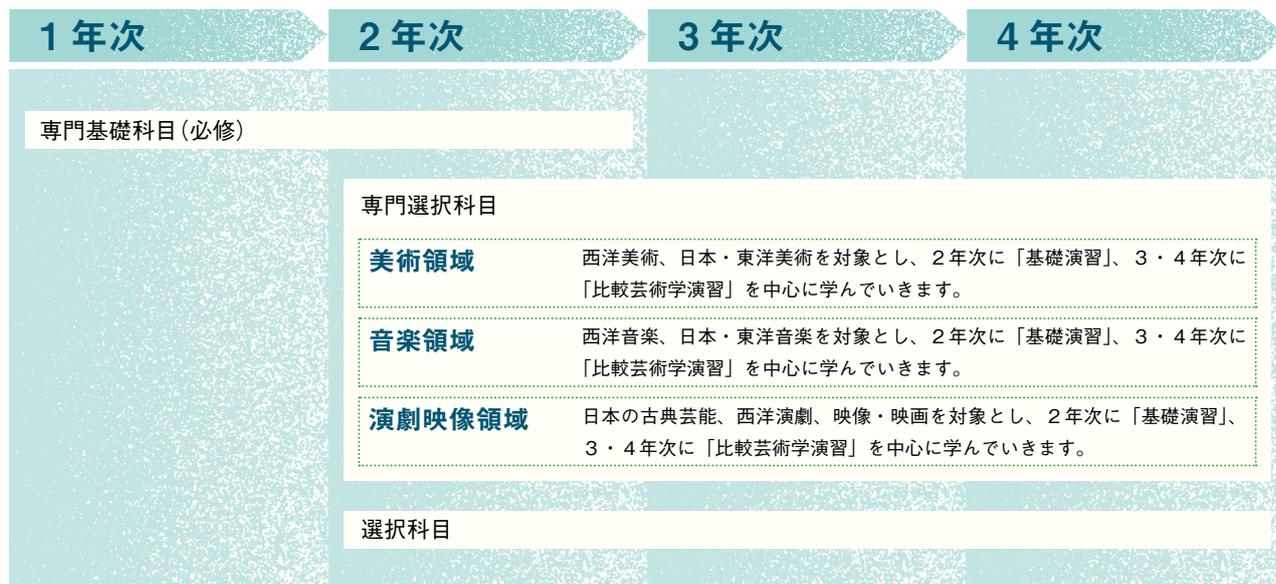
鑑賞教育の基礎を学ぶことにより、Ⅰ美術・Ⅱ音楽・Ⅲ演劇映像それぞれのジャンルの通史的な理解を前提に、それと同時代の諸文芸との関連を比較・学習することで、芸術系3領域それぞれの特性のより明確な把握を目指す。

2
年次

各領域における「基礎演習」「原書講読」「鑑賞の方法」などの専門科目の比較学習・研究を徹底することにより、各領域それぞれの共通性や異質性への学問的認識を深める。

| | | |
|---|---|--|
| 専門基礎科目 | 比較芸術学入門A／比較芸術学入門B／西洋の文芸と美術A 西洋の文芸と音楽A／西洋の文芸と演劇映像A／ 日本・東洋の文芸と美術A／日本・東洋の文芸と音楽A／ 日本・東洋の文芸と演劇映像A | |
| | 芸術と文学／芸術と法 | |
| 専門 選択科目 <small>(イ)～(ホ)までは上記による、2つ以上の領域から単位を取得すること</small> | (イ) | 西洋の文芸と美術B／西洋の文芸と音楽B／西洋の文芸と演劇映像B／日本・基礎演習Ⅰ(1)(2)(3)、Ⅱ(1)(2)、Ⅲ(1)(2)(3) |
| | (ロ) | 原書講読Ⅰ(1)(2)(3)、Ⅱ(1)(2)、Ⅲ(1)(2)(3) |
| | (ハ) | [芸術鑑賞の方法Ⅰ](1) 絵画の制作を通じた美術作品の鑑賞法 [芸術鑑賞の方法Ⅱ](1) 中世・ルネサンス・バロック音楽の記譜法 [芸術鑑賞の方法Ⅲ](1) 歌舞伎と歌舞伎舞踊の表現や仕組み |
| | (ニ) | [比較芸術学特講Ⅰ](1) キリスト教文化における造形イメージのあり方 (6) 日本中世近世絵画における「描かれた祭り」と名所 [比較芸術学特講Ⅱ](1) 近代フランス音楽の「三大作曲家」フォーレ・ (5) リヒャルト・ワーグナー 歌劇『タンホイザー』 [比較芸術学特講Ⅲ](1) フランスの演劇人「ヴァレール・ノヴァリナ」作品 |
| | (ホ) | |
| | (ト) | |
| 選択科目 | 美学・芸術思想Ⅰ・Ⅱ／西洋の宗教と芸術／日本・東洋の宗教と芸術 | |
| 外国語科目 | 英語講読Ⅰ／英作文／オーラル・イングリッシュ | 英語講読Ⅱ |
| 全学共通科目 | 青山スタンダード科目 学部・学科の所属に関わりなく、専門領域を超えてさまざまな学問分野の知識を身につけます。 | |
| 自由選択科目 | 学科科目、青山スタンダード科目、外国語選択科目の必要単位以上の履修、文学部共通科目、文学部他学科、他学部開講科目の履修が可能です。 | |

3つの領域を相互に関連させ、理論学習と体験・実践学習とを組み合わせながら、学びを深めていきます。



| | |
|----------------------|---|
| <h1>3</h1> <p>年次</p> | <p>2年次よりひきつづき、比較学習、研究を徹底する。各領域の専任教員のもとで本格的な演習の履修がはじまり、より専門性の高い教育内容の修得を目指す。</p> |
| <h1>4</h1> <p>年次</p> | <p>各領域ゼミナールとも選択必修科目の「特別演習」と「特別演習(卒業論文)」により卒業論文(本文2万字程度)の作成指導を行い、専門的研究の出発点とする。各専門領域の知識のさらなる修得に努める。</p> |

※領域は次のように表されます。

I 美術 / II 音楽 / III 演劇映像

| |
|---|
| 東洋の文芸と美術B / 日本・東洋の文芸と音楽B / 日本・東洋の文芸と演劇映像B |
| (2) 西洋美術作品の鑑賞法と鑑賞発表 (3) 国内外の美術館・博物館の成立史と鑑賞法 |
| (2) バロック音楽における修辭学 (3) 民族音楽学・音楽人類学からみる世界各地の多様な文化 |
| (2) 歌と踊りのない演劇はなぜヨーロッパで生まれたのか (3) 映画におけるドキュメンタリーとフィクションについて |
| (2) イメージとマテリアリティ(物質性) (3) 西洋美術史学の方法と歴史 (4) 近現代彫刻史とその展開 (5) 日本文人画と近代の「東洋憧憬」 |
| (7) 神像彫刻の出現と展開 (8) 日本における「異神の図像学」 |
| ドビュッシー・ラヴェル (2) 義太夫狂言の音楽的な特徴 (3)・(4) チャイコフスキーのオペラ《エヴゲニー・オネーギン》の楽曲分析 |
| 『ローエングリン』研究 (6) オペレッタ研究 ヨハン・シュトラウス二世『こうもり』 フランツ・レハール『メリー・ウィドウ』 |
| 分析 (2) 西洋近現代演劇における「祝祭」概念の変遷 (3)・(4) 「歌舞伎における悪」 (5)・(6) アメリカと日本の映画通史 |
| 比較芸術学演習 IA (1)・(2) ~ ID (1)・(2)、II A (1)・(2) ~ II B (1)・(2)、III A (1)・(2) ~ III C (1)・(2) |
| 特別演習 / 特別演習(卒業論文) |
| 博物館実習 I / 博物館実習 II ※3年次・4年次のみ履修可能 |

○ 比較芸術学会で自主的に学ぶ

「青山学院大学比較芸術学会」は、学生の皆さんが協力しあいながら自主的に学び、研究の成果を発表するための学会組織です。2013年度に設立され、学生全員と専任教員を主な学会員とします。活動内容は次の通りです。芸術全般についての専門的な研究成果を発表する学会誌『パラゴネ』の発行（年1回）。学生が主体となって、芸術や文化について自由に執筆する『HIGE会報』の発行（年3～4回）。比較芸術学会大会の開催（年1回）。また、美術・音楽・演劇映像の各分野に「研究会」があり、それぞれ鑑賞会や勉強会を定期的で開催しています。学会活動を通して、自ら学ぶことの面白さを存分に体験してください。

入試情報

詳細は本学ウェブサイトでご確認ください。
<https://www.aoyama.ac.jp/>

【一般入学試験】

| | 募集人員 | Web 出願期間 | 試験日 | 合格発表日 | 入学手続締切日 |
|--------|------|-----------------------------------|---------------------|---------------|---------------|
| 全学部日程 | 約5名 | 2026年1月5日(月)～ 1月19日(月) 23:00まで | 2026年2月7日(土) | 2026年2月14日(土) | 2026年2月24日(火) |
| 個別学部日程 | 約45名 | 2026年1月5日(月)～ 1月21日(水) 23:00まで | 2026年2月14日(土) PM | 2026年2月24日(火) | 2026年3月3日(火) |

※出願書類提出期限は、全学部日程はWeb出願期間締切日3日後、個別学部日程はWeb出願期間締切日2日後郵送必着です。

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は2026年3月16日(月)です。

【自己推薦入学試験】

出願資格は、次の(1)～(3)のすべての項目に該当する者。

- (1) 以下の①または②のいずれかに該当する者
- ① 2026年3月に日本の高等学校(または中等教育学校の後期課程。以下同じ)を卒業見込みの者※
- ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2026年3月31日までに修了見込みの者
- (2) 本学科を第一志望として本学科へ進学を希望する者
- (3) 以下の①または②のいずれかに該当する者
- ① 高等学校における「全体の学習成績の状況」が4.0以上である者

② 下記、3点すべての要件を満たす者

- 1) 高等学校における「全体の学習成績の状況」が3.8以上であること
- 2) 高等学校における「外国語」の「学習成績の状況」(評定の平均値)が4.2以上であること
- 3) 高等学校における「世界史探究」または「日本史探究」のいずれかの「学習成績の状況」(評定の平均値)が4.2以上であること
- ※日本にある外国人学校(インターナショナルスクール等)を卒業見込みの者、「高等学校卒業程度認定試験」合格者は含みません。

| | 募集人員 | 選考方法 | 出願期間 | 合格発表日 |
|----------------|------|---------------|--------------------------------|------------------------|
| 第1次審査 | 約8名 | 書類審査 | 2025年9月29日(月)～10月2日(木) 郵送必着 | 2025年11月14日(金) |
| 第1次審査 合格者のみ | | 選考方法 | 試験日 | 合格発表日 |
| 第2次審査 | | 芸術に関する基礎知識、面接 | 2025年11月24日(月) | 2025年12月2日(火) |
| | | | | 2025年12月12日(金) 郵送必着 |

大学院文学研究科 比較芸術学専攻に進むには

本専攻の目的は、芸術系諸学との相互関係はもとより、歴史や哲学、文学をはじめとする人文科学系諸学とのそれをも踏まえながら研究を進め、掘り下げることです。取り上げる領域は、美術史学、音楽学、演劇映像学の諸分野であり、志望する学生は、各自が進む領域の基礎的学力を備えていることが前提です。入学後は専門分野の研究に入りますが、常に他領域に関心を向け、それらとの比較を通じた総合的な視野が要求されるでしょう。授業は、実作品の鑑賞研究を中心に、文献史料の読解力を蓄える原典講読や論文執筆のための文章力を鍛えるレポート作成、そしてプレゼンテーション能力を高める課題発表などで構成されています。博士前期課程では、成果を修士論文としてまとめることとなり、同後期課程では、学会発表や学術誌への投稿を経て、博士論文の作成が最終の目的となります。

比較芸術学専攻 博士前期課程

| 授業科目 | | |
|------|------------------|------------------|
| 基礎科目 | 比較芸術学研究法Ⅰ、Ⅱ | 比較人文学研究法Ⅰ、Ⅱ |
| 専門科目 | 日本・東洋美術史(1)研究Ⅰ、Ⅱ | 日本・東洋美術史(1)演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 日本・東洋美術史(2)研究Ⅰ、Ⅱ | 日本・東洋美術史(2)演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 日本・東洋美術史(3)研究Ⅰ、Ⅱ | 日本・東洋美術史(3)演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 西洋美術史(1)研究Ⅰ、Ⅱ | 西洋美術史(1)演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 西洋美術史(2)研究Ⅰ、Ⅱ | 西洋美術史(2)演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 西洋美術史(3)研究Ⅰ、Ⅱ | 西洋美術史(3)演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 日本・東洋音楽史研究Ⅰ、Ⅱ | 日本・東洋音楽史演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 西洋音楽史(1)研究Ⅰ、Ⅱ | 西洋音楽史(1)演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 西洋音楽史(2)研究Ⅰ、Ⅱ | 西洋音楽史(2)演習Ⅰ、Ⅱ |
| 研究指導 | 日本芸能論研究Ⅰ、Ⅱ | 日本芸能論演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 西洋演劇論研究Ⅰ、Ⅱ | 西洋演劇論演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 映像文化論(1)研究Ⅰ、Ⅱ | 映像文化論(1)演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 映像文化論(2)研究Ⅰ、Ⅱ | 映像文化論(2)演習Ⅰ、Ⅱ |
| | 研究指導演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ | |

修了生からのメッセージ

深く学び、広く知る

郡山市立美術館

比較芸術学専攻 2020 年度修了

鈴木 えみこさん

比較芸術学科を目指す人の中には、「学芸員」なんて仕事もいいな、と考えている方もいるかもしれません。私も一度企業に就職した後に、やはり学科で学んだことを生かして働きたいと思い直し、大学院に入りました。大学院では研究に打ち込み、そして研究方法を体得していくことが大切です。しかし実際の学芸業務では、一つの研究だけに没頭していればよいということはほとんどなく、さまざまな地域や時代の文化芸術についての知識も必要とされます。その意味では、比較芸術学科・専攻で広く芸術分野について学んだことは、私の今の仕事においてアドバンテージになっていると思います。比較芸術学科から学芸員を目指す人には、大学院では研究について多くの先生方や友人たちと話し、学外でも学会・勉強会に参加する、博物館でのインターンやアルバイトなどを通して、フットワークを軽く、視野を広くすることをお勧めします。学生特権を活用して、将来設計に役立てましょう。

あなたの言葉で芸術を語るために

歌手・文筆家

比較芸術学専攻 2020 年度修了

ゆつきゅんさん

高校生のときから映画、美術、音楽などの芸術に幅広く興味があり、なぜ自分がその作品に魅力を感じるのか語れるようになりたいという思いで比較芸術学科に進学しました。同時代的なカルチャーへの関心が強い自分だからこそ、歴史を学び、文脈への理解が深まるこの学科を選択してよかったと改めて思います。芸術は突然変異的に一つだけ発生することはないと知りました。好き嫌いの良い悪いの区別もつくようになりました。青山学院大学は日本最高の立地です。とにかく渋谷で映画を観て、とにかく大学図書館で文献を読んで、出来る限り言葉で表現していくことに時間を費やせた学生期間はかけがえないものでした。大学院では修士論文のテーマに迷ったこともあり、さらに領域横断的な学びを得ることが出来ました。芸術を言葉にすることは芸術であり、言葉の本体は心と頭です。歴史と他人の視点に積極的に潜り込み、あなただけの審美眼に辿り着いてください。



青山学院大学

文学部比較芸術学科

Department of Comparative Arts

—比較芸術学科に関するお問い合わせ先—

【文学部 比較芸術学科】

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

Tel 03-3409-9527

https://www.aoyama.ac.jp/faculty/literature/comparative_arts/

デザイン：宮古美智代&藤木敦子
絵：横山 雄
写真：ただ（1～13頁、14頁左下）
編集：北川史織